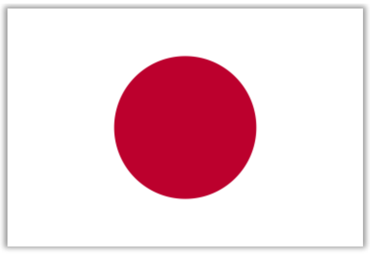
『御即位』『改元』『大嘗祭』を奉祝致します

平成の御世も、今上陛下の御譲位に因り終焉を迎えるに當り、思い起こせば、“廿一世紀は日本の時代”との前評判に始まつたが、バブル崩壊後の経済運営の失敗や、リーマンシヨツク、東日本大震災を始め、度重なる天変地異・「混迷する自民党政権」・「暗愚な民主党政権」そして、「再生自民党・安倍政権」のはずが、官邸主導の弊害であろう官僚による忖度・隠蔽・改竄の日常化等々、『平成』らしからぬ事態に、本来なれば、人心一新を図るべく、改元の大勅（オオミコトノリ）を発す可き処であろう。

元号法制化に依り、「一世一元の制」が定められた元で、御譲位の聖断を下された事を重く受け止めると供に、新天皇陛下の御即位と新元号発布を奉祝し、天壌無窮（アメツチキワマリナキ）より良き新世代を、国民共に築こう。

☆“即位の礼”とは、皇太子殿下が新天皇陛下に就任される儀式であり、正しくは皇御孫命（スメミマノミコト）が天皇（スメラミコト）として、『三種之神器』と供に皇位を継承された事を内外、天地神明、公（オオヤケ）に報告される一連の行事であります。

☆“大嘗祭”とは、新天皇が初めて行う新嘗祭ですが、その本義は日嗣皇子（ヒツギノミコ）が天津日嗣（アマツヒツギ）として天照皇大神の御分霊（ミワケミタマ）を継承する一世一代の最も重要な儀式です。



塾頭　舘野　雅秀

2019年		行事	意味
2月	24日	天皇陛下在位30年記念	
		賢所および皇霊殿神殿に御譲位期日奉告の儀	皇祖神の天照大御神を祀る賢所と歴代の天皇陛下を祀る皇霊殿神殿に天皇陛下が御譲位の期日を奉告される
		神宮および神武天皇山陵および前4代の天皇山陵に勅使発遣、奉幣の儀	
		神宮および神武天皇山陵および前4代の天皇山陵に親謁の儀	
4月	30日	賢所の儀および皇霊殿神殿に親謁の儀	天皇陛下御在位中の最後の祭典として天皇陛下御親ら御譲位(退位)のことを奉告される
		退位礼正殿の儀	天皇陛下の御退位を広く国民に明らかにするとともに、天皇陛下が御退位前に最後に国民の代表に会われる儀式
5月	1日	剣璽等承継の儀	新しい天皇陛下が即位の伴い剣璽等を承継される儀式
		賢所の儀および皇霊殿神殿に御践祚(即位)奉告の儀	皇祖神の天照大御神を祀る賢所と歴代の天皇陛下を祀る皇霊殿神殿に天皇陛下が即位されたことを自ら奉告される
		即位後朝見の儀	天皇陛下から『おことば』が述べられた後に内閣総理大臣から天皇陛下への『奉答文』がなられる
			前天皇陛下に『上皇』、前皇后陛下に『上皇后』の尊称を奉られることがふさわしいと考える
		改元	
	2日	賢所の儀、皇霊殿神殿に奉告の儀(第2日の儀)	
	3日	賢所の儀、皇霊殿神殿に奉告の儀(第3日の儀)	
		賢所および皇霊殿神殿に即位礼・大嘗祭期日奉告の儀	皇祖神の天照大御神を祀る賢所と歴代の天皇陛下を祀る皇霊殿神殿に天皇陛下が即位礼・大嘗祭の期日を奉告される
		神宮および神武天皇山陵および前4代の天皇山陵に勅使発遣、奉幣の儀	
	即位礼当日	賢所大前の儀	皇祖神の天照大御神を祀る賢所に天皇陛下が即位したことを自ら告げる儀式
		皇霊殿神殿に奉告の儀	歴代の天皇陛下を奉る皇霊殿神殿に天皇陛下が即位したことを自ら奉告する儀式
10月	22日	即位礼正殿の儀	天皇陛下が即位を国の内外に宣明する儀式
		祝賀参列の儀	
		饗宴の儀（数日間）	
	23日	首相夫妻主催晩餐会	
11月	14～15日	大嘗祭	大嘗祭は天皇陛下が即位の礼の後、初めて行う新嘗祭
			新嘗祭は毎年11月に天皇陛下が行う収穫祭で、その年の新穀を天皇陛下が神に捧げ自らも食す祭儀である
	大嘗祭	神宮に奉幣の儀	
	当日	賢所大御饌供進の儀	
		皇霊殿神殿に奉告の儀	
		賢所および皇霊殿神殿に親謁の儀	
		賢所御神楽の儀	
2020年			
4月	19日	立皇嗣の礼	皇位継承第1位になることを正式に公に示される儀式のこと

資料提供：和田神社 宮司　奥田雅人

皆様もご承知の通り「天皇は日本の象徴」です。

では、その源流はどこにあるのでしょう。

天皇のご先祖は、太陽の神「天照大御神」であり、この天照大御神の御孫にあたる「瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）」が地上を収めるために天から降りる際、大御神から「三種神器」である「八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）」「八咫鏡（やたのかがみ）」「草薙剣（くさなぎのつるぎ）」とともに、「三つの神勅（みことのり）」も授けられました。

- ◆天照大御神の子孫が日本の君主として栄え続ける事
- ◆八咫鏡を大御神に接するのと同じようにして祀るべき事
- ◆人々の食の糧となる神聖な他の稲穂を授ける事

このような歴史の中、神代からの約束事を現代にまで伝え、天照大御神から続く子孫が皇位に即かれ、神勅の精神が受け継がれています。

その文化・歴史の中心に今もいらつしやる天皇は、まさに日本という私たちの国の「象徴」と申し上げられるでしょう。

そして、次にご紹介する「御大礼」の「即位礼」「大嘗祭」「大饗」「親謁」とは、日本の象徴である「天皇の即位に係わる一連の儀式の総称」です。

初めに「新帝が即位を宣明する」ことを「即位礼」と申します。

この即位礼とは、新しい天皇陛下が三種神器を受け継ぎ、その即位を国内外に宣言し、陛下がその御座である「高御座」へ登られる威風堂々とした儀式です。

即位後、天皇陛下が初めて行われる新嘗祭（五穀豊穣の収穫祭）を特に「大嘗祭」と申し、皇室の中でも、古来より最も重要なお祭りとされ「天皇陛下が国を挙げ、日本中を代表した祭礼を自ら執り行い」ます。この「天皇一代に一度だけのお祭り」では、東西から全国の代表となる「悠紀田」と「主基田」（明治以降は「県」）が選定され、そこで穫れた新穀が神饌（おそなえ）とされ、天皇陛下が世の中の平穏と繁栄を祈られる古式ゆかしい厳粛なお祭りです。

この後、天皇陛下は、「大饗」と呼ばれる、大嘗祭で神様にふるまつた神饌の撤下神饌（おさがり）をわかち、国民とともに歓びをともにします。

このような即位の儀式を終えられた天皇陛下は、「親謁」と呼ばれる天照大御神をお祭りする伊勢の神宮や、神武天皇、そして近縁の天皇がお鎮まりになる御陵に自ら参拝し、即位を奉告されます。

また、その他多々あります毎年の行事の一例として、元日の早朝五時三十分。薄暗く、凍てつく寒さのなか、天皇陛下自ら、御所から約四百m離れた宮中ある神嘉殿の前庭にお出ましになり、篝火に照らされた地面に畳を敷き、屏風に囲まれた場所で、南西に向かつて伊勢神宮を遥拝し、次いで東南西北の順に四方の神々に拝礼される「四方拝」という祭祀を行い、五穀豊穣や国民国家の安寧を祈願されています。

このように、天皇とこの国に生きる私たちとの紐帯（むすびつき）は、単に神話だけによるものではなく、常に国と人々とともにあらせられ、国民と日本という国を深く慈愛されている天皇と、我々日本の国民の、互いの信頼と敬愛にも基づいているものなのです。

発行元　伊勢神威塾　三重県伊勢市御薗町高向
教学局　千葉県鴨川市和泉
電話番号　〇五九六ー二二ー二二二〇
電話番号（携帯）〇九〇ー五五六一ー一〇〇八
ホームページ　http://www.shinijuku.jp